

ひきこもり者を支援しない支援 「ために」から「ともに」

2021年1月

筑後市社会福祉協議会／福岡県
コミュニティワーカー・地域福祉係長 卜部善行

ひきこもりは悪くありませんが、
ひきこもり生活を終わりたいと思った時、私たちに何かお手伝いできないでしょうか。

久留米市、八女市、柳川市、大木町、みやま市、広川町に隣接 筑後市って知っています？



久留米市、八女市、柳川市、大木町、みやま市、広川町に隣接 筑後市って知ってます？



(令和2年3月31日現在)

◎人口49,447人

◎世帯数19,899世帯

◎一世帯平均2.48人

◎65歳以上人口13,382人

◎高齢化率27.06%

◎15歳未満人口7,179人

筑後平野の中央に位置する田園都市。博多からJR鹿児島本線を利用すると約45分、九州新幹線を利用すると約24分、車で九州自動車道(八女インターチェンジ)を利用すると約1時間の距離。



温暖な気候と肥沃な土地、恵まれた水を利用して、古くから米・麦・イグサ・ナシ・ブドウ・八女茶をはじめとする農業が盛んに行われてきた。

周辺のほとんどの自治体では人口が減少するなか、筑後市では人口や世帯数が増加している。平成23年3月には、九州新幹線筑後船小屋駅が、平成28年春に「HAWKSベースボールパーク筑後」が開業。

一面的な「福祉」「相談支援」からの脱却

30歳代のひきこもり青年。

離職して、約5年引きこもっています。

何をもって「支援」というか。

先入観と不登校・ひきこもり

支援の対象者は誰？

当事者は誰？

中学生の頃、不登校でした。

学校に行けなくなりました。

先生は、僕を学校に行かせようと

してくれました。でも・・・。

心に残った家族の声・・・不登校・ひきこもり家族会サルビアの会 最初のアプローチは家族だった

- 自分の部屋にひきこもり、顔も見れない。生きているのか、不安になるんです。(20歳代の息子がひきこもり)
- 相談に行っても、「じゃあ息子さんと一度来てください」と言われる。息子が外に出ないから困っているんです。支援者は家に来てくれないのでしょうか。(30歳代の息子がひきこもり)
- 高齢者や障害者への支援はたくさんあるのに、ひきこもりへの支援はほとんどない。家族だけでは、この問題は解決できないんです。家族も限界なんです。(20歳代の息子がひきこもり)
- 市役所や社協は「何でも相談していいですよ」と言う。でも「本当に相談していいんだらうか？」と思うんです。「ひきこもり」という看板がなかったら相談できないんですよ。(40歳代の息子がひきこもり)

「アウトリーチ＝家庭訪問が全て」ではない。あの手この手で当事者やその家族に近づこうとする行動すべてがアウトリーチ(広報や学習会なども含まれる)。筑後市社協の場合は、家族会活動や相談支援によってまずは家族に近づこうとしました。

筑後市社協では各種当事者団体の組織化を行なってきました。その中で、「同じ立場だからこそ分かり合える」という場面をたくさん目の当たりにしてきました。そこで、ひきこもり者支援も同様に第1歩として家族が安心して話せる場の設定を行うことから始めました。

筑後市社協のひきこもり者支援の展開(2014年～)

- ひきこもり家族会の組織化(2014年～)
- ひきこもり者調査の実施(2015年、2016年)
- 共同募金アルバイト、短期アルバイトとしての雇用(2015年～)
- 校区福祉会等と連携した学習会の実施(2015年～)
- 福岡県ひきこもり者支援実施社協連絡会議の実施(2015年～)
- JC、VO連と協働して行政への請願書提出(2016年)
- フリースペース&内職シェアスペースふらっとスペースのオープン(2016年～)
- ラン伴との連携(2016年～)
- もえもんサービスのスタート(2017年～)
- ひきこもり本人交流会の開催(2017年～)
- 災害ボランティア活動との連動(2017年)
- 市との定期的な意見交換会の実施(2018年～)
- ひきこもり家族相談会のスタート(2018年～)
- 若者サポーター養成講座の開講(2019年～)
- 福祉センター検温×ひきこもり者支援プロジェクト(2020年)

「ひきこもり」を「ひきこもりだけ」で考えない。
1や2を積み重ねて、100に近づけていく。
動きながら考え、考えながら動く。



ひきこもりフリースペース&内職シェアスペース ふらっとスペースとは



- 自宅から外に出る機会が少ない方、ひきこもりがちな方、人との会話が少ない方、長期間仕事に就けていない方などが、“ふらっと”来れる場所として、筑後市総合福祉センター内の一室に2016年4月からオープン。
- 毎週水曜日・金曜日の13:30～16:00開所。
- フリースペースには、マンガ本・ゲーム機器、卓球台などがあります。
- 内職スペースには、内職(仕事)があります。仕事量に応じて工賃をお渡ししています。
- 利用は無料。内職スペースのみ内職登録をいただいています。
- スタッフ3名(皆、兼務です)。

ふらっとスペース全体像

手前が内職スペース、奥がフリースペース



フリースペース① 卓球が色んな人をつなぐ



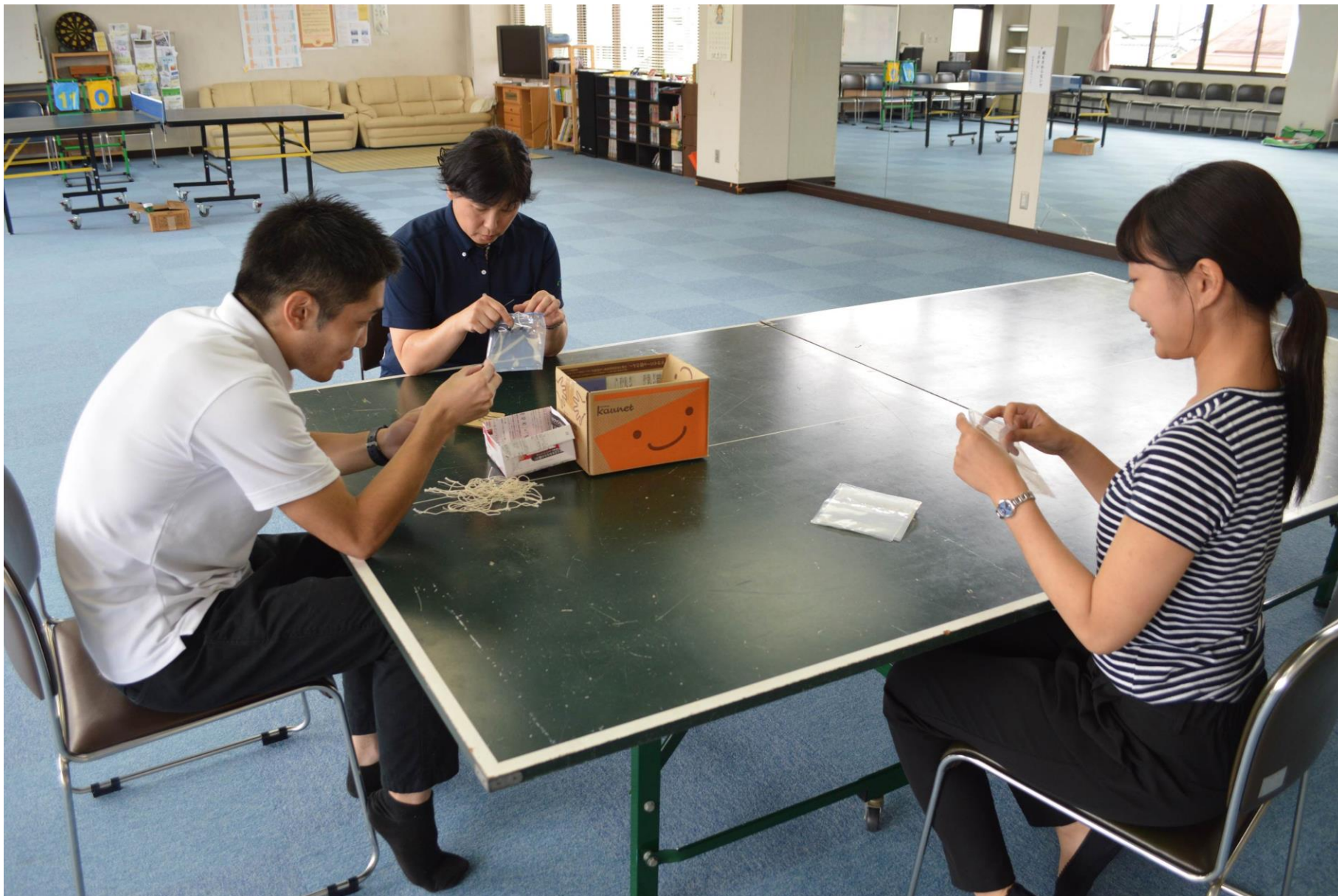
フリースペース② マンガ・ゲーム・CD等、全て寄付の品



フリースペース③ フリードリンク、お菓子。これも寄付の品。



内職スペース① 現在は養殖ハリの資材と花火の箱詰め



内職スペース② 自社製品も作成&販売



ことの起こり...

仕事だったら外出できる！



- ひきこもり家族会サルビアの会を組織化していた。定例会の中で、「本人にどうアプローチしようか悩む」という意見が多くある。
- 家族会は、家庭訪問ができる「ひきこもり相談員」の設置を行政等に訴えるために組織化したが、中々進まない。
- たまたま、社協で数日間のアルバイトがあった。サルビアの会の会員に「子どもさんにどうですか？」と尋ねた。何と2人の参加があった。「引っ張り出す」という支援よりも、「出てきたくなる」仕掛けも大事？
- 仕事があったら家から出るというひきこもり者もいることが分かったので、つながりのある障害福祉サービス事業所を通じて、納期が緩やかな内職を調達。
- 家族会と社協だよりでオープンを周知。2016年4月からスタート。

短期アルバイト募集

★経験不問・個人ワークも可能です★

筑後市社会福祉協議会では1~4日間程度の短期間のアルバイトを募集します。
共同募金に関する簡単な事務作業です。お気軽にご応募ください♪



【募集要項】

日程	9月20日(水)~22日(金) [予備日25日] 1~4日間程度勤務できる方募集
募集人員	5名程度(個室での勤務可能)
時間	9時~16時の中で勤務可能な時間(1時間からOK)
業務内容	ラベル貼り・広報折り・封筒詰め・糊付け 領収書のナンバー打ち等 簡単な作業です。
給与	時給770円 (都合や体調に合わせて1時間からでも可能)
勤務地	筑後市総合福祉センター内 筑後市社会福祉協議会

問合せ

筑後市社会福祉協議会

筑後市野町680-1 担当 伊藤・ト部
TEL 0942(52)3969 FAX 0942 (53) 6677
MAIL info@chikugo-shakyo.or.jp

予想外の来所者！

ふらっとスペースは中継点



	開所日数	フリースペース 延利用者	内職シェアスペース 延利用者	ボランティア延人数	来所者合計
2016年度	99日	139人	366人	183人	688人
2017年度	98日	254人	179人	206人	639人
2018年度	98日	194人	217人	249人	660人
2019年度	99日	89人	367人	186人	642人

支えることで支えられる関係～もえもんサービス～

誰もが支える側になる支え合い。



- ある地域のサロンに出向いた時。「草取りが大変で困っている」とある高齢者。私は「だったら、若者支援しませんか？」と。
- ひきこもり本人は困っている高齢者を草取り支援で支える。高齢者は仕事と工賃を提供することで若者を支える。
- もえもんサービスとしてスタート。高齢者とひきこもり青年が共に支える仕組み。回数を重ねると、仲間意識が芽生える。
- 貸付相談に来られた方にも声掛けし、わずかではあるがすぐに収入を得られる仕事として、活動を紹介している。
- 活動件数

2017年度：27件 2018年度：28件 2019年度：28件


ひきこもり家族相談会のスタート！ 解決力のある相談支援を模索。

同じ家族同士だから共感できる。

(毎週木曜日13:00～16:00開所)

心配ごと相談では、
ひきこもりのご家族の相談も
お受けします。

ひきこもり家族相談は、
第2木曜日13:00～16:00です。※要予約



ひきこもり相談について

- とき
毎月第2木曜日の13:00～16:00
(祝日と重なる場合はお休みです)
- 場所
筑後市総合福祉センター内相談室
(〒833-0032 筑後市野町680-1)
- 費用は無料です。
- 相談をお受けできるのは、毎回3組までです。
- ひきこもり家族会サルビアの会の会員と、社協のひきこもり者支援担当のスタッフがお話を聞きます

相談支援の内容

- まずはお話をしっかりお聞きします。
- ひきこもりの方を支援する機関等を紹介します。
- ひきこもりご本人との関わりについて、一緒に考えます。

その他

- 原則、来所にて相談をお受けします。
- 秘密厳守で相談をお受けします。
- 匿名での相談も可能です。

予約が必要です

- ひきこもり家族相談を希望される方は、毎月第1木曜日の17時までにご予約ください。

*その他の相談は予約は必要ありません。

問合せ・予約
筑後市社会福祉協議会
☎ 0942-52-3969

〒833-0032 筑後市野町680-1
FAX: 0942-52-3969
mail info@chikugo-shakyo.or.jp

心配ごと相談について

- 開所日 毎週木曜日の13:00～16:00

「ちょっとしたことだけど人に話や悩みを聞いて欲しい」
「まずどこに相談したらいいのか分からない」
「家庭内の問題で他ではなかなか話せない」といった人たちが気軽に相談できる身近な相談所として開所しています。
民生委員や民生委員OB、福祉団体の代表などが相談員として、皆様のお話を聞きます。

- ひきこもり支援者が集まる研修で。「私たちは話をお聞きし、しかるべきところにつなぎます」のオンパレード。「話は聞くけど、解決はしない。そんな支援はしたくない」と思う。
- ふらっとスペース、家族会、もえもんサービスなど、紹介できる支援をつくり、相談会はその後にスタートした。(毎月1回実施)*相談窓口を増やすことも大事だが、「出口」となりえるサポートを増やすことはもっと大事。
- サルビアの会の会員2名が相談員になってくださる。同じ家族同士だからこそ、共感できるし、言葉に力がある。
- 2018年度 相談日 9回・相談対応件数7件
- 2019年度 相談日12回・相談対応件数8件

助っ人になってくれた青年たち

支えることで支えられ、支えられることで支える



- 朝倉市での災害ボランティア活動の助っ人に！
- 社協の短期アルバイトの助っ人に！
- 市役所からアルバイトの募集の話。人材不足の助っ人に！
- 各種製本作業の助っ人に！
- 検温スタッフとして福祉センターの助っ人に！
- 終活中の高齢者宅から、処分する家具を運び出す助っ人に！
- トイレ清掃の作業員として福祉施設の助っ人に！
- 物事の捉え方を教えてくれる助っ人に！（「若年性認知症で自分のことを25歳と思っている？老け込むよりもいいじゃないですか♪」）

様々なところで話題にした結果・・・言う気は勇氣

関心が理解に、理解が支援に①



- 「うちの親が認知症になって」と言いやすくなったように、ひきこもり者への理解が広がることで、家族が相談しやすくなるのでは。そんな思いから、小地域福祉活動やボランティア活動等の場面で、ひきこもり者支援の状況を逐一報告していた。
- 2015年福祉員等研修会で「ひきこもり者支援」がテーマに(330名参加)。以降、校区福祉会で「ひきこもり者支援」が研修テーマとして掲げられることが増えていく。
- 民生委員の協力のもと、ひきこもり調査も実施。調査が啓発になることもある(2015年、2016年、2019年)。
- ボランティアを募集していたわけではないが、近所の民生委員やボランティア連絡協議会の会員がふらっとスペースに来てくれる。幅広い年齢層がいることで、話題が豊富になる。

若者支援の輪を広げるインフルエンサーに

関心が理解に、理解が支援に②



- 2019年度、若者サポーター養成講座を開講中。予想を上回る、60名以上の方が受講された。
- 中には、ひきこもり本人の姿も…。「修了書」がひきこもりの空白期間をうめる一つになる。
- 家族の参加も多数。自身の子どもへの関わりを振り返る機会に。
- 民生委員・校区福祉会役員の姿も多数。ふらっとスペースやもえもんサービスで活動してくださる仲間にも…。
- 具体的な活動はなくても、社協の若者支援のインフルエンサーになってくださることを期待。

好きなこと・得意なことが、他人の役に立つ

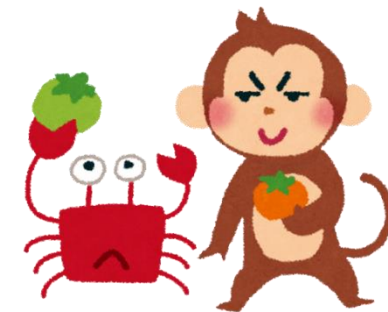
関心が理解に、理解が支援に③



- 「知り合いがひきこもりで・・・」と見学に来た人が趣旨に賛同してくださり、ボランティアで来てくれるように。不登校の少年と仲良くなる。友人の卓球をしているおじさんを紹介してくれて、卓球が流行りだす。
- 配偶者が自営業をしていて、陳列できないお菓子などを定期的に寄付してくれる。みんなすごく喜ぶ。
- 折り紙が得意な利用者メンバーと樹脂粘土細工が得意な家族会会員が、一緒にフリーマーケット的なイベントに出店することに。
- ラン伴実行委員から応援旗の発注。認知症者支援とひきこもり者支援のリンク。

ひきこもり者支援を考える

これならできる？「おにぎりと柿の種」の視点で



おにぎり・・・

「今」ひきこもっている人や家族にできそうなこと。

柿の種・・・

「10年後」の未来のためにできそうなこと。

もちろん、「筑後市社協のやり方じゃダメだ」という方もいらっしゃる。だからこそ、自分に合った支援を選択できるように、多様な支援が様々にある地域づくりが必要だと思っています。